

試験時間 90分

注意事項

- 1 解答用紙、草稿用紙ともに受験番号と氏名の記入を忘れないこと。
- 2 問題用紙、草稿用紙は解答用紙とともに机上において退出すること。持ち帰ってはいけない。

次の文章を読んで、問に答えなさい。

ちよつとしたことがきつかけで、長年忘れていたことを思い出すことがある。このように潜在記憶は、ひよんなことをきつかけにして意識上に姿をあらわす。

私は、潜在記憶を刺激する方法として、よく本を読む。本を読んで、そこに書かれている知識や体験を吸収しようというのではない。本に書かれていることを刺激にして、潜在記憶を攪拌し、自分自身の中から何かを引き出すのが目的だ。

本を読むと、さまざまな連想が働き、忘れていたことを次々に思い出す。「何か似たようなことがあった気がする」「そういえば、こんなこともあったな」「あのやり方が使えるかもしれない」「そうだ、こんな分類はどうだろう」といった具合に、本に書かれていることが刺激となつて、自由連想のネットワークが動き出し、潜在記憶が活性化される。

本に限らない。映画を観ても、テレビドラマを見ても、潜在記憶が刺激される。映画そのもの、ドラマそのものに集中し、楽しみながらも、自由連想のネットワークが自動的に動き出し、自分の中の潜在記憶がふと蘇ることがある。

多くの発想は、そんな具合に自分自身の中から引き出されるものである。私たちの記憶には、生まれてから数十年もの間、日々経験してきた事柄が詰まっている。そのほとんどは意識されることなく、潜在記憶の形で眠っている。まさに「眠れる発想の宝庫」である。大切なのは、普段意識に上らないものを意識上に引き出すことである。そのため、さまざまな刺激を利用するのだ。

人に会つて話すというのも潜在記憶の活性化のために有効な方法だ。相手の言葉や相手が語るエピソードを刺激にして、潜在記憶から関連するものが引き出される。自分ひとりで考えていては得られないような刺激が得られ、そこから連想のネットワークが膨らんでいく。そこに自分自身の潜在記憶の何かが引っかかる。場所というのも強力な刺激となる。場所というのは、そこで起こつた出来事やそれにまつわる思いと密接に結びついている。

はるか昔に訪れた場所を久しぶりに訪れると、長年すっかり忘れていたその当時のことが、部分的にはあるが、鮮やかに蘇る。あたかも当時の記憶がその場所に保管されていたかのように。

ゆえに、発想を得るために場所と記憶の連合を利用するという手がある。

たとえば、海について調べているなら、海に関する資料に目を通したり、パソコンを通して海に関連する情報を検索するだけでなく、実際に海に行つてみるのもよい。現実の海に何かヒントが転がっているだけでなく、海の景色や匂いを刺激して潜在記憶の中から何かを引き出されるかもしれない。

(中略)

夢の中で発想を得たとか、お風呂に入つてるときに発想を得たといったエピソードをよく耳にする。

化学者ケクレは、ベンゼン環の発想者として知られるが、原子の結びつきに関して、何度か夢をヒントに着想を得ている。

ある晩ケクレは、ベンゼン化合物の結合について考えている最中にうたた寝をした。夢の中で、原子が長い列をつくり、ねじれたり巻きついたりしながら、蛇のような運動をしていた。そのとき、一匹の蛇が自分の尾をくわえ、輪になつてグルグル回つた。この夢をヒントに、ケクレは炭素原子を輪につないだ。その後ベンゼン環と呼ばれることになつた化学結合である。ケクレは、夢に学ぼう、そうすれば私たちは真理を発見できるだろうと言ふ。ただし、夢に見たことは目覚めた心で理解し、証明する前にむやみに公表しないように用心しようと注意も促している。

常識を破る発想は、現実的な縛りの緩まつた状態で浮かんでくることが多い。ゆえに、夢のように無意識に漂っているときにヒントが浮かんできやすい。それを現実の問題に当てはめるには、醒めた意識で冷静に検討する必要があるのだが、いったんは現実の縛りから解放されないと、常識を破る発想を得ることはできない。

出典：榎本 博明 記憶の整理術 (株) P H P 研究所 二〇一一年五月六日発行

問一 この文章に二〇字以内で適切なタイトルをつけなさい。

問二 文中の傍線部のようにケクレが言っている理由を二〇〇字以内で述べなさい。

問三 医学において常識を破る発想をするにはどうしたら良いかを「潜在記憶」という言葉を入れて六〇〇字以内で述べなさい。